

目次

口絵 i

「災害対応の地域研究」シリーズの刊行にあたって v

凡例 xi

はじめに——「歴史としてのレジリエンス」を考える……………川喜田敦子…1

「地域研究は震災にどう対応するか」という問い／「災厄」からの復興を考える／
レジリエンスの可能性を求めて／「レジリエンスの地域研究」への展望

第一部 革命後を生きる——コミュニティから亀裂を修復する

第1章 ベトナム北部農村の現代史——村から見た一九四五年飢饉・抗仏戦争・抗米戦争……………古田元夫…17

1 一九四五年飢饉と救済活動 22

2 抗仏戦争と土地改革 31

3 抗米戦争と合作社 38

4 むすびにかえて——ドイモイ・難民・三つ目の戦争 45

土地

第2章 インドネシア九・三〇事件——犠牲者五〇年の痛み……………倉沢愛子…51

1 被害の諸形態 55

2 社会からの「追放」——シャウ・ギョク・チャン一族のケース 66

3 和解と名誉回復 71

家族

第3章 中国華北村落のレジリエンス——雨乞い復活を通して考える……………石井 弓…97

- 1 山西省孟県の雨乞いとコミュニティ 100
- 2 歴史的な災害(ストレス)と雨乞い——オーラルヒストリーから分かること 108
- 3 雨乞いの復活とその変化 117
- 4 華北農村におけるレジリエンス 124

儀 礼

第二部 不条理を生きる——共通の敵を作らずに連帯する

第4章 諸帝国の周縁を生き抜く——台湾史における辺境ダイナミズムと地域主体性……………若林正文…131

- 1 現代台湾先住民の墓——三種の文字四種の名前 133
- 2 社会の形成——台湾社会基礎構造の形成と展開 139
- 3 国家の形——社会制圧と可視化プロジェクト 151
- 4 国民の形成——意図せざる国民形成の偶然的連続 159
- 5 新たな辺境ダイナミズムと地域主体性 169

言 語

第5章 ナクバ〈以後〉を生きる——難民とパレスチナ問題……………長沢栄治…177

- 1 難民の十字路——中東 182
- 2 ナクバを語る 190
- 3 ナクバ〈以後〉を生きるということ 203
- 4 むすびに——歪みと不正 214

故 郷

第6章 脆弱な土地に生きる——バングラデシュのサイクロン防災と命のボーダー……………日下部尚徳…221

- 1 バングラデシュにおけるサイクロン被害と対策 226
- 2 住民避難から考える防災支援課題 229
- 3 災害間比較から考える支援のミスマッチ 233
- 4 災害被害を拡大させる社会構造 240
- 5 バングラデシュのサイクロン防災に関する考察 247

支 援

第三部 科学技術と生きる——社会の災いとして認定する

第7章 「ヒロシマ」における回復の諸相——複数の当事者性をめぐって……………川口悠子…261

- 1 はじめに——原爆による被害と回復 263
- 2 世界の「ヒロシマ・ナガサキ」 264
- 3 ナショナルな「ヒロシマ・ナガサキ」 265
- 4 「ヒロシマ」の越境と「平和都市」イメージ 270
- 5 おわりに——当事者性の拡大と多様性 276

越 境

第8章 チェルノブイリ原発事故と記憶——ベラルーシを中心に……………越野 剛…281

- 1 SF的想像力——映画『ストーリーカー』の影響 285
- 2 災害と笑いの文化 289
- 3 災害の予言——後づけで想起される物語 291
- 4 戦争の記憶 294
- 5 想起の文化——災厄によって災厄を思い出す 296

文 学

第9章 赤泥流出と原発事故——東欧スラブ地域からレジリエンスを考える……家田 修・セルヒー・チョーリ……301

1 産業災害とは何か 303

2 ハンガリーにおける災害復興住宅支援 314

3 チェルノブイリ原発事故後における復興住宅建設 326

4 おわりに——社会と国を結ぶレジリエンス 338

科 学

おわりに——社会のレジリエンスを歴史に問う……西 芳実……343

社会の危機とレジリエンス——戦争・独立・災害／地域と時代を越えた経験の共有に向けて／
歴史の経験をレジリエンスのもととする

索引 366

著者紹介 368

凡例

写真の撮影者名は、その章などの執筆者が撮影したものについては省略した。

また、参照したウェブサイトの閲覧日も、校正時にアクセスできたものについては概ね省略した。

